

緊急事態宣言が発出された以降は、政府及び東京都の新型コロナウイルス感染症対策本部の方針に沿いながら、さまざまな感染防止の対策を実施し、島内へのウイルスの入り込み、ひいては村民への感染を阻止してきたところです。しかしながら、緊急事態宣言と相俟って、村自ら来島の自粛を呼びかけたことによ

り、観光客の来島はほぼ無くなり、このため村内の観光事業者の収入は、4月以降、激減することとなりました。

この頃は、横浜港に寄港した「ダイヤモンド・プリンセス号」で発生した新型コロナウイルス感染症が報道され始めた時期でしたが、小笠原村では、独自の判断で、他町村に先駆けて、コロナ対策を始めました。

② 第二に、独自の来島自粛・上京自粛の呼びかけを行ったことです。

これは、村内の商工観光団体と村とが歩調を合わせ、政府の緊急事態宣言の発出に先駆けて、来島者や村民に不要不急の来島や上京を自粛していただくよう要請したものです。

観光立島である小笠原村にとっては苦渋の決断でしたが、村民の安心・安全を優先しました。

その状況を改善するため、村内事業者が国に助成金を申請した段階で、村がその申請額を事業者に一時的に貸し付け、国の助成金が支給された際に返還していただく制度をつくりました。

村内事業者の雇用調整助成金の申請を促し、村内の雇用を維持していただくための支援策です。

③ 商工会による相談体制の構築経費の支援

先程の国の雇用調整助成金の申請は、当初、提出書類も多く、複雑だという声が村内にもあったため、商工会に、パソコンを使用してWEB映像を通して、村内事業者の方々が、内地の社会保険労務士や中小企業診断士と個別に雇用調整助成金の申請等について相談できる体制を構築していただき、村ではその経費を支援いたしました。

④ 農産物・土産品等の販売促進支援

来島者の激減や島じまんの2020の中止など内地での需要が大きく減少したことにより、農産物や土産品の大量の売れ残り等が予想されたため、販売の促進を図る必要から、4月から9月までの間、販売した農産物や商品を内地に送る際の送料を村で負担するようになりました。

⑤ 水産物の出荷経費の支援

内地の飲食店等の需要が大幅に落ち込んだことから、高級魚の単価が下落したため、水産物の出荷にかかる固定経費の一部を補助することにより、漁業者を支援することとしました。

世帯人数	月額収入基準額
単身世帯	10万円
2人世帯	15万円
3人世帯	20万円
4人世帯	25万円
5人以上世帯	30万円

② 一時貸付金の貸付

国の支援策の中に、休業手当等を従業員に支払い雇用を維持させるための雇用調整助成金という制度がありますが、申請後、助成金が支給されるまで何か月も時間を要するという状況もあり、村内事業者の申請がなかなか進んでいませんでした。

《島内の経済回復に向けて》

現在も、村の緊急支援策は

② 一時貸付金の貸付

国の支援策の中に、休業手当等を従業員に支払い雇用を維持させるための雇用調整助成金という制度がありますが、申請後、助成金が支給されるまで何か月も時間を要するという状況もあり、村内事業者の申請がなかなか進んでいませんでした。

継続しています。

5月の緊急事態宣言の解除後、村は段階的に島内の社会生活、経済活動を再開することを基本方針とし、6月についても来島・上京の自粛要請を継続することとしました。

また、7月、8月からは段階的な来島者の受入れを開始しましたが、おがさわら丸の乗船客の人数を制限しながら受け入れを行っています。

今後、国内の感染リスクの状況等を見定めながら、来島者の受け入れを増やしていくことも検討していく必要があります。

経済回復に向けた国や東京都の施策が打ち出されていますが、村としても、村民の安心・安全を優先しながら、以前のように多くの皆様にご来島いただけるよう、経済活動の本格的な再開を目指していきたいと思っております。

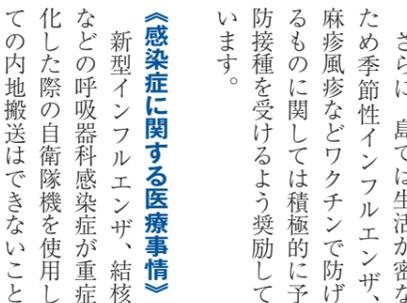
最後に、新型コロナウイルスへの対応は長期化が予測されます。



このため、小笠原村では、「新型コロナウイルス感染症対策支援寄附金の募集」を開始いたしました。

内地在住の旧島民の皆様、小笠原協会関係者の皆様には、「ご理解ご支援のほど宜しくお願いいたします。また、新型コロナウイルスへの備えを共に講じてまいりたいと思っております。

新型コロナウイルス感染症への対応が急務となつていますが、小笠原村でのこれまでの感染症対策と新たな対応について、元小笠原村診療所長の笠井あすか医師にまともて聞いた。



小笠原諸島ならではの注意すべき感染症として、サルモネラ感染症、デング熱・チクングニア熱、ツツガムシ病、レプトスピラ症、鳥インフルエンザ、広東住血吸虫などがあげられます。

特に近年観光客増加に伴う輸入感染症のリスクが高まっていることから、父島二見港を検疫港に指定し、東京検疫所が年二回、蚊・ねずみ族の媒介動物の侵入調査及び生息調査を実施しています。また媒介動物も固有種が存在し、マラリア等の媒介動物になるかの調査やアフリカマイマイやグリーンアノールの調査も行ってきました。

さらに、島では生活が密なため季節性インフルエンザ、麻疹風疹などワクチンで防げるものに関しては積極的に予防接種を受けるよう奨励しています。

新型コロナウイルス感染症への対応が急務となつていますが、小笠原村でのこれまでの感染症対策と新たな対応について、元小笠原村診療所長の笠井あすか医師にまともて聞いた。

小笠原での感染症対策

元小笠原村診療所長 笠井あすか

《感染症に関する医療事情》

新型インフルエンザ、結核などの呼吸器科感染症が重症化した際の自衛隊機を使用し、ての内地搬送はできないこと

となつていました。しかし、診療所では、以前よりそのような患者が発生した際の、PPE（個人用防護服）の着脱訓練、患者搬送時の感染対策については定期的に保健所と検査所も合わせ訓練を行ってきました。今回新型コロナウイルス感染症を機にこの搬送体制も見直されています。

《新型コロナウイルス感染症への対応》

小笠原村でのこの間の対応は、2020年1月初旬からは医療課医師が新型コロナウイルス感染症の情報収集を開始し、1月18日 ドック便前に上京する職員に向けて感染予防・注意喚起

1月24日から 英文発表論文やWHO発表をもとに保健医療スタッフで情報共有

1月31日 小笠原村診療所と母島診療所間での医療課対策会議

2月3日 診療所・総務課・保健所で関係者会議

2月4日 診療所感染対策委員会

2月6日 小笠原村 新型コロナウイルスに関する連絡協議会

2月7日 竹芝棧橋での問診・検温開始（ドック明け便）

これは、村役場のスタッフ、医師、看護師が中心になり

① 竹芝棧橋での検温、体調確認、渡航履歴確認、手指消毒の徹底

② マスク配布とマスク着用の徹底

③ 必要に応じて健康相談コーナーで詳細聴取し体調確認

④ その結果を、小笠原村東京事務所の職員が出港時に小笠原海運と小笠原村診療所と共有し船室の調整及び下船時の体調確認を行いました。

その後も小笠原海運、東京都との協力にて竹芝棧橋の検温は継続しています。

また小笠原村の対策4本柱として

① 情報発信（村民だより、HP、防災無線、掲示、診療所主催の松平医師による講習会「正しく知って正しく守ろう！新型コロナウイルス感染症について」(母島2/12、父島2/15)開催)

② 問診、検温(竹芝棧橋での検温・健康相談コーナー)

③ 医療対応(保健所で帰国者・接触者相談センターを設置し診療所では、保健所、内地医療機関と連携して、小笠原村で実施可能な検査・治療を行う)

④ 感染予防(村内施設での消毒薬の設置、手指衛生、咳エチケット指導、マスクの配布)を掲げ、感染状況に応じた対策を講じています。

その後も小笠原海運、東京都との協力にて竹芝棧橋の検温は継続しています。

また小笠原村の対策4本柱として

① 情報発信（村民だより、HP、防災無線、掲示、診療所主催の松平医師による講習会「正しく知って正しく守ろう！新型コロナウイルス感染症について」(母島2/12、父島2/15)開催)

② 問診、検温(竹芝棧橋での検温・健康相談コーナー)

③ 医療対応(保健所で帰国者・接触者相談センターを設置し診療所では、保健所、内地医療機関と連携して、小笠原村で実施可能な検査・治療を行う)

④ 感染予防(村内施設での消毒薬の設置、手指衛生、咳エチケット指導、マスクの配布)を掲げ、感染状況に応じた対策を講じています。

その後も小笠原海運、東京都との協力にて竹芝棧橋の検温は継続しています。

また小笠原村の対策4本柱として

① 情報発信（村民だより、HP、防災無線、掲示、診療所主催の松平医師による講習会「正しく知って正しく守ろう！新型コロナウイルス感染症について」(母島2/12、父島2/15)開催)

② 問診、検温(竹芝棧橋での検温・健康相談コーナー)

③ 医療対応(保健所で帰国者・接触者相談センターを設置し診療所では、保健所、内地医療機関と連携して、小笠原村で実施可能な検査・治療を行う)

④ 感染予防(村内施設での消毒薬の設置、手指衛生、咳エチケット指導、マスクの配布)を掲げ、感染状況に応じた対策を講じています。

感染流行状況が刻々と変わる中、毎週、村、都、診療所、保健所の合同対策会議を行っています。また母島診療所看護師を中心に相談窓口となり、島民の質問に医学的に正しい情報を伝え、不安を抱えないよう対応しています。

世界各地の新型コロナウイルス対策は

① コントロール路線(長期戦/ワクチン開発がゴール)

② 封じ込め路線(徹底調査と隔離が必要)

③ 拡大許容路線(自主性/集団免疫がゴール)

に分類でき日本は①の路線をとっていましたが、これは介入の強さの調整に失敗すると一気に感染爆発が起き医療崩壊につながるリスクもあります。また長期戦になることから、医療体制が整っているところで可能な対策です。島は地理的にはニュージール

感染流行状況が刻々と変わる中、毎週、村、都、診療所、保健所の合同対策会議を行っています。また母島診療所看護師を中心に相談窓口となり、島民の質問に医学的に正しい情報を伝え、不安を抱えないよう対応しています。

世界各地の新型コロナウイルス対策は

① コントロール路線(長期戦/ワクチン開発がゴール)

② 封じ込め路線(徹底調査と隔離が必要)

③ 拡大許容路線(自主性/集団免疫がゴール)

に分類でき日本は①の路線をとっていましたが、これは介入の強さの調整に失敗すると一気に感染爆発が起き医療崩壊につながるリスクもあります。また長期戦になることから、医療体制が整っているところで可能な対策です。島は地理的にはニュージール

感染流行状況が刻々と変わる中、毎週、村、都、診療所、保健所の合同対策会議を行っています。また母島診療所看護師を中心に相談窓口となり、島民の質問に医学的に正しい情報を伝え、不安を抱えないよう対応しています。

世界各地の新型コロナウイルス対策は

① コントロール路線(長期戦/ワクチン開発がゴール)

② 封じ込め路線(徹底調査と隔離が必要)

③ 拡大許容路線(自主性/集団免疫がゴール)

に分類でき日本は①の路線をとっていましたが、これは介入の強さの調整に失敗すると一気に感染爆発が起き医療崩壊につながるリスクもあります。また長期戦になることから、医療体制が整っているところで可能な対策です。島は地理的にはニュージール



トレーニングを継続して行っています。
引き続き東京都、保健所と情報共有を継続しつつ、今後の動向・情報収集を分析し、新たに開発されている検査キット、治療薬、検体採取方法も封じ込め路線ができるよう、医療体制を整えていければよいと考えます。

このように、小笠原村では島民が正しい感染予防対策を実践する「自助」、万が一感染した場合に他人に感染させない「共助」にて、効果と持続性のある感染対策を行っていただきます。また来島者を安心安全のもと、おもてなしをするため父島内の観光業者がガイドラインを作成しました。小笠原村にご来島される方は、「小笠原村HP」7月以降小笠原諸島へご旅行を予定される皆様へお願いです。小笠原村観光協会で作成されたガイドラインで詳細をご確認いただき、小笠原村の感染対策にご理解とご協力をお願いいたします。

東海汽船3代目「さるびあ丸」が就航 令和3年からは「おがさわら丸」の代替運航も

東海汽船株式会社は本年6月25日、東京竹芝と大島・神津島航路に新造船「さるびあ丸」の運航を開始いたしました。

「さるびあ丸」は、東京都及び小笠原村から建造費用の一部をご負担いただき、近海仕様とすることで、2021年の「おがさわら丸」のドック運休時から、代替運航を予定しております。この「さるびあ丸」の就航が、小笠原の島民の皆様への長年のご期待に応えられることを信じております。

「おがさわら丸」と同じ三菱造船下関で建造された全長118メートル、幅17m、航海速度20ノット、総トン数6099トン、旅客定員1343名の貨客船です。今回就航にあたり、「おがさわら丸」ドック入り時に、東京・父島航路を代替運航できるように船体の強化を施し、防火設備や緊急時の脱出経路など



「アイランド」と呼ばれる島々への航海中、満天の星空を眺めたいと、トッポのオープンデッキの床は柔らかいゴムチップを敷き詰め、また透明な屋根のあるデッキからも星空が眺められるものとなっております。まさに小笠原航路ではその航海中にお楽しみいただけるものと思っております。

2020年度 小笠原訪問・交流ツアー延期

小笠原協会では、本年も小笠原訪問・交流ツアーを予定していましたが、小笠原村の訪島自粛要請を受け、ツアー実施の可能性を探ってまいりました。

新型コロナウイルスに關し、全国的な緊急事態宣言が解除され、小笠原村でも渡島自粛が緩和されましたが、依然渡島人数の制限を設けています。また昨今の新型コロナウイルスの感染状況でも、第2波への懸念があり、首都圏を中心に感染者は増加の兆しがあります。

このような状況のなかにおいては、積極的に小笠原訪問・交流ツアーを企画し、参加者を募集することは困難であると判断いたしました。今後、交流ツアーの実施については、小笠原村とも相談し、年度内の開催が可能であるかどうか様子を見守ることといたしました。

故河野博夫氏の 訃報に接し

小笠原村長
小笠原協合理事
森下 一男

返還以来、長きにわたり当会の役員を務められ、小笠原の復興・振興に多大なご尽力をいただきました河野博夫氏の訃報に接し、心より哀悼の意を申し上げます。

故河野博夫君を 偲んで

(株)ハマフーズ代表取締役
濱中 昭

想えば1939年父島の大村尋常小学校に新入生として入学以来八十余年、お互いに見かける程度の距離を保ちつつ戦中戦後の混乱を無我夢中で駆け抜けてきたのも、多分に「博夫」の力添えによること大であると感謝している。

ところでこの年入学した60名は、男女とも姓は無視して名を呼び合うことに徹していたのは何故か？ヒロオ、アキラ、菊池タダチヤン、タカチャン、丸丈のタケシ等々原因不明です。厳粛な訃報に接してあえてクラスのことについて触れたのは、このメンバーが事あるごとに都内の某所に集い望郷の念冷めやらぬまま時を過ごしたのはこの20年だけでも数え切れません。その集合の呼びかけ人は、そのほとんどが「ヒロオ」であったことも誰もが認めるところです。「ヒロオ」独特のあの穏やかな物言いで誘われ、断る旧

(公財)小笠原協会役員紹介

令和2年5月28日に公益財団法人小笠原協会の理事会で、顧問が新たに選任されました。

顧問
秋山 俊行

事務局長退任挨拶

常務理事 前事務局長
菊地 輝雄

元東京都副知事
現日本自動車ターミナル株式会社代表取締役社長

私は賛助会員の皆様の真心と、旧島民の皆様への強く熱い思いに支えられ、この三年半協会の事務局長として勤めることが出来ました。心から感謝申し上げます。

さて私が事務局長に就任したのは、小笠原諸島・硫黄列島の返還50周年を迎えようとしている時であり、この50年の節目を経てこれから何をなすべきかを考えさせられました。当時の私は、正直、小笠原協会の発足の経緯も知らず、先ずは協会の創立50周年史を読むことから始めました。しかし、幸いにも最初の仕事は、国の法務主査が小笠原の逸話を記した「戸籍時報」の復刻(小笠原の歳月)でした。またその翌年は、小笠原村前総務課長のセーボレー孝さんの講演に基づく、「小笠原今昔」

感謝

河野金属株式会社
代表取締役 会長等歴任
元小笠原協会評議員
元小笠原協合理事
令和2年4月8日ご逝去
享年87歳

なお、故河野博夫さんのご遺志により、小笠原協会に金十萬円のご寄付をいただきました。ありがとうございます。

就任のご挨拶

新事務局長
齋藤 邦雄

この度、「公益財団法人小笠原協会」の事務局長に6月1日付で就任しました。齋藤邦雄と申します。何卒宜しくお願い申し上げます。

4月1日に小笠原協会の職員となりましたが、その直後に新型コロナウイルス感染症予防のため緊急事態宣言が発令されました。不要不急の外出自粛、在宅勤務など感染予防対策を講じることとなり、制約事項の多い中でのスタートとなりました。

私は長年IT関連の民間企業に勤務してきました。島については直接経験がありませんが、島の発展に貢献したいという意欲と情熱は人一倍ありと考えております。今まで培った経験を最大限に活用してまいります。

発刊であり、どちらも貴重な学習の機会となりました。

「小笠原今昔」では、江戸期の最初の小笠原定住から現在までが記述されています。平和な島へのペリーの来航は、島の数奇な未来を予感させます。その後の明治期の日本領土への編入、昭和の太平洋戦争と強制疎開、敗戦と四半世紀近い米軍の占領、そして旧島民の苦難と切実な帰島運動等々、歴史の渦に巻き込まれていく小笠原と島民の姿が描かれています。

一方、全国硫黄島島民の会が刊行した「硫黄島クロニクル」は、戦争と玉砕の島であるとの私の硫黄島に対するイメージを一変させてくれました。そこには澄んだ青い空、実り豊かで、色彩感溢れる果物と花の島があります。元氣な子供たちは、相撲、野球、凧揚げに興じ、青年はテニスや釣りを楽しむ、一家団樂と平和な生活があったのです。

当然といえば当然です。しかし、硫黄島の玉砕とともに全ては焼き尽くされ、私たちに残された情報はほんの僅かです。

今年の機関誌「小笠原」特集号は、硫黄島の証言(第3集)の予定です。強制疎開の時に10歳の少年は、今は85歳になります。少年時代の島での思い出や強制疎開後の苦難の道のりを歴史に止めることが出来るのは今しかありません。

私はこれからも小笠原協会の一員として、世界に類を見ない小笠原・硫黄島の歴史を発掘し、後世に止めるよう努めてまいります。かつて小笠原協会の福田篤泰初代会長は、「小笠原の問題は、全国民の問題である」と言われました。あれから半世紀、再び原点に立ち返り残された課題と将来の小笠原のために尽力

してまいりたいと思っております。ありがとうございます。

最後にありますが、島および小笠原協会の発展に尽力してまいりますので、小笠原関係者の皆さま、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

